

○ネコノチチ属およびその近縁属について (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI:
On *Rhamnella* and its allied genera

琉球に産するヤエヤマネコノチチについて、大井次三郎氏は独立の種類とし、初島住彦氏はネコノチチの変種としてあつまっている。両者がどのような関係にあるかを明らかにするには、ネコノチチ属とその近縁属の関係までひろげて検討しなければならない。ネコノチチ属 *Rhamnella*、クマヤナギ属 *Berchemia*、ヨコグラノキ属 *Berchemiella* と、中国、インドシナの *Chaydaia* は、分布も主に中国、日本に中心をもち、近縁のものである。これらについては Schneider (Pl. Wilson, 2: 221-224, 1914), Nakai (Bot. Mag. Tokyo, 37: 29-31, 1923), Koidzumi (Bot. Mag. Tokyo, 39: 21, 1925), Hu (Journ. Arnold Arb. 6: 142, 1925), Handel-Mazzetti (Symb. Sinicae 7: 670-671, 1936), Suessenguth (Nat. Pflanzenfam. ed. 2, 20d: 141-147, 1953) などの研究があるが、いまだに一定していない。

Schneider は *Rhamnella*, *Berchemia*, *Chaydaia* を区別し、ヨコグラノキの仲間 *Rhamnella* としてあつまっている。中井はヨコグラノキの類が、花盤の形で *Rhamnella* からいちじるしく異なることから、区別して新属 *Berchemiella* とした。小泉は *Berchemiella* の花盤の特徴は *Berchemia* と同じであることから、前者を *Berchemia* に含めた。この見解は現在も大井や北村四郎氏にうけつがれている。Hu は *Chaydaia crenulata* を *Berchemiella* にうつした。しかし Handel-Mazzetti はこれに反対して、この種は *Chaydaia* に残すべきだとしている。*Berchemiella* は小泉の見解をとっているようである。Suessenguth は上記 4 属をすべて別属としてあつかい、ほぼ中井の見解と同じである。

これら 4 属は長楕円形の果実をもつて共通しており、羽状脈の葉の外観もきわめて類似している。クマヤナギ属は枝の先に細長い円錐花序を作り、ネコノチチ属は葉のわきに短い集散花序を作る。しかしヨコグラノキ属と *Chaydaia* とは、枝の先はクマヤナギ的な細長い花序を作るが、葉のわきにもネコノチチ的な花序をもつので、こうした外観では区別がつけにくい。

これらの区別には中井がとりあげた花盤の形が重要な特徴となる。クマヤナギ属、ヨコグラノキ属は花盤が内側に肥大して子房の下半部をとりまいている。ネコノチチ属と *Chaydaia* とは花盤は内側に肥大せず皿状またはコップ状となり、子房は離れてその中心にある。この形はきわめてはっきりしていて、前者はナツメ属やクロイゲ属の花盤に似た形であり、後者はクロウメモドキ属に類似している。

以上の点からして、クマヤナギ属とヨコグラノキ属が近いという、小泉の見解は正しいといえよう。しかしクマヤナギ属がつる性の低木で、ヨコグラノキ属が高木であるという違い以外にいくつかの差異がある。

クマヤナギ属の托葉は 2 枚が癒着して茎をおおい、下部は茎に沿着している。ヨコ

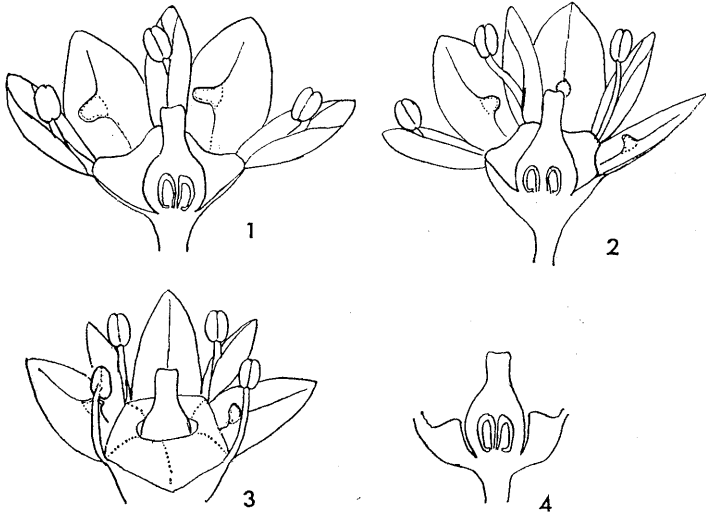


Fig. 1. Flowers of *Rhamnella* and *Berchemiella*. 1. *Rhamnella franguloides*. 2. *Rhamnella inaequilatera*. 3-4. *Berchemiella berchemiaefolia*. All $\times 100$.

グラノキ属では、托葉は基部までさげ茎からも離れていて、ネコノチチ属のものと似ている。クマヤナギ属のがく片は、中央部が内側にやや肥厚するが突起は作らない。ヨコグラノキ属ではがく片の中央内側に突起ができて、この性質もネコノチチ属に類似する。したがって花盤をとりあげるとヨコグラノキ属はクマヤナギ属に一致するが、托葉やがく片をとりあげるとネコノチチ属に近いことになる。これらはそれぞれ別属としてあつかうのが妥当だと思う。

ネコノチチ属と *Chaydaia* とは、前者は葉が薄く基部はほぼ正形であり、後者は葉がやや厚く基部は不正形であるというが、前者も不正形になる傾向があり、重要な特徴とはならない。大きな違いは花盤の形にある。ネコノチチ属では花盤はあまり肥厚せず、子房は薄い花筒の基部につき、花盤からは殆んど離れている。*Chaydaia* の花盤はやや肥厚して厚い花筒を作り、子房の基部は花盤の一部と癒合している。またネコノチチ属の花序はえき生の集散花序であるが、*Chaydaia* ではえき生の集散花序をもつと同時に頂生の集散状総状花序をもつ。

上記の特徴からすると、今まで *Rhamnella* のものとして報告されていた、海南島の *R. rubrinervis* (Lév.) Rehder や琉球のヤエヤマネコノチチ *R. inaequilatera* Ohwi は *Chaydaia* に属させなければならない。しかし花序の性質は、頂生花序があまり見られないヤエヤマネコノチチの例からしても、属の特徴としては問題にならないものである。花盤の性質はその傾向は認められるが程度の問題で、属を区別するほどはっ

きりした特徴とは見られない。*Rhamnella* は日本、中国の温帯に分布し、*Chaydaia* に属すとみられるものは華南、インドシナなどの亜熱帯に分布するので、同一属の地理的分布を異にする群として認めるのが妥当と思われる。

ヤエヤマネコノチチは初島氏はネコノチチの変種としたが、全体無毛であり、葉の鋸齒は鈍頭でとがらない点と、上記花盤の形から別種とすべきものとする。

上記の諸属の区別は下記のようなものである。

- A. Frutex scandens. Stipula connata basi in ramis adnata. Sepala medio non rostrata. Discus turgidus complanatus ovarium dimidio amplectens *Berchemia*
- A. Frutex vel arbor non scandens. Stipula libera. Sepala medio rostrata.
- B. Discus turgidus complanatus ovarium dimidio amplectens *Berchemiella*
- B. Discus cupulae ovario liberus vel apertus *Rhamnella*
- C. Discus cupulae subcrassus ovario apertus sect. *Chaydaia*
- C. Discus cupulae tenuis ovario liberus sect. *Rhamnella*

Rhamnella Miq. sect. **Rhamnella**.

Rhamnella franguloides (Maxim.) Weberb.

Distr. Japan, Korea and central China.

Rhamnella sect. **Chaydaia** (Pitard) Yamazaki, comb. nov.

Chaydaia Pitard in Lecomte, Fl. Indo-Chine 1: 925 (1912).

Rhamnella tonkinensis (Pitard) Yamazaki, comb. nov.—*Chaydaia tonkinensis* Pitard, l. c. p. 925 (1912).

Distr. Tonkin.

Rhamnella crenulata (Handel-Mazzetti) Yamazaki, comb. nov.—*Chaydaia crenulata* Hand.-Mzt. in Sitzg. Ak. W. Wien 58: 149 (1921), Symb. Sinicae 7(3): 670 (1936)—*Berchemiella crenulata* (Hand.-Mzt.) Hu in Journ. Arnold Arb. 6: 142 (1925).

Distr. S. China (Kweichou and Kwangsi).

Rhamnella rubrinervis (Lév.) Rehder in Journ. Arnold Arb. 15: 12 (1934)

—*Rhamnella hainanensis* Merrill in Philip. Journ. Bot. Sci. 21: 349 (1922).

Distr. S. China (Kweichou and Hainan).

Rhamnella inaequilatera Ohwi in Journ. Jap. Bot. 26: 231 (1951)—*Rhamnella franguloides* Weberb. var. *inaequilatera* (Ohwi) Hatusima in Sci. Bull. Agric. & Home Economics, University Ryukyus 3: 21 (1956).

Distr. Ryukyu.

(東京大学理学部附属植物園)